

オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会 議事概要

1 日時：平成 31 年 1 月 25 日（金）10:00～11:30

2 場所：オーテピア 4F 研修室

3 出席者：[委員] 加藤勉委員、齋藤明彦委員、篠森敬三委員、常世田良委員

[オーテピア高知図書館] 渡辺高知県立図書館長、貞廣高知市立市民図書館長 ほか

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

① オーテピア高知図書館サービス計画について

・委員会の進め方

・オーテピア高知図書館サービス計画の取り組み状況

② その他

(3) 閉会

5 議事

(1) 委員会の進め方について

資料 2 について事務局から説明。

(2) オーテピア高知図書館サービス計画の取り組み状況について

資料 3 について事務局から説明し、意見交換が行われた。

(3) その他

6 委員からの主な意見（議事（2）について）

1 地域を支える情報拠点機能の充実

(1) 資料・情報の提供（貸出し・閲覧・予約）*資料 1 ページ

- ・ 資料費について、投資をただけの見合があるのか、投資し続けることができるのかが問われる。サービスや評価については 3 年後とかにきちんとした状況になってないといけない。
- ・ セルフ貸出機は利用者が使うことが習慣化すると職員の負担軽減になるし、利用者側も時間短縮になるため貸出実績にもつながってくる。
- ・ リクエストをする人には図書館をよく使う人が多いため、スピーディーに対応するとサービスの評価が高くなる。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供 *資料 2 ページ

- ・ 県関係資料の収集について、周知の徹底はなかなか難しい。個別の課に言うだけでは話が進まないの、組織的に号令をかけてもらうことも一つの方法。

2 暮らしや仕事の中でのさまざまな課題解決への支援

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス *資料 4 ページ

- ・ 開館までに打ち合わせを重ねてきた行政や関係機関との関係を今後も維持すべき。
- ・ データベースについて各市町村立図書館も含めて全県展開できないか。県立が持っているデータベース利用の権利に若干県立で費用を上乗せして、市町村には負担なく他館も使えるようにすればインパクトが大きい。

(4) 行政支援サービス *資料 7 ページ

- ・ チラシの収集について、図書館からくださいと言うよりも、相手が図書館にチラシを置くとどんどんなくなっていくから、積極的に利用してくれるというふうに転換できるとよい。
- ・ 例えば新採研修の中に図書館の利用の仕方を説明する時間を設けてもらえば、十年後には県庁あるいは市役所の中の三割くらいの間が知識を持っていることになる。
- ・ 県・市の職員研修を行っている部屋の後方に見合った本を持って行って、貸出も行って「こういった情報を図書館の方では提供していますからぜひご利用ください」といった形をとってもよい。

3 利用者に対応した図書館サービスの充実

(1) 児童サービス *資料 8 ページ

- ・ 児童書の選定支援について、館から遠い地域で拠点となるような図書館等でスペースを確保して期間を決めて展示し、うち一日は説明に行くといったことができないか。

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス *資料 10 ページ

- ・ 多文化サービスを外国人に周知するには、例えば外国人を登録するような所にサービス内容を紹介したチラシを置いて、登録の時に持って帰ってもらうような形ができないか。

4 連携・支援及び図書館の活用

(1) 市町村立図書館等への支援（県立図書館機能）*資料 12 ページ

- ・ 市町村立等図書館への支援については「市町村の図書館を経由すればいくらかでも本は借りられます」というのをどこまで周知できるかがこれから重要になる。巡回訪問はメリハリをつけて、伸びる館は積極的に出かけて行って伸ばして、オーテピアと一緒にやったからここまで伸びたという事例がいくつも出てくるのが理想。

(3) 県立学校図書館等との連携・協力（県立図書館機能）*資料 14 ページ

- ・ 例えば高校生に学校の図書館を通じて県立図書館の本がいつでも借りられるとわかっただけなら、彼らは卒業した後でも図書館の使い方を理解している。未来のユーザーを育てるという意味も含めて学校にも力を入れてもらいたい。

(4) 中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携 *資料 15 ページ

- ・ ボランティアサークルができたのは非常にいいことで、今後は彼らにどれだけメリットを提供できるかが長続きの要件。

◎その他の意見

《広報等に関する意見》

- ・ 全国からの視察の件数は今後も維持すべき。理事者（予算等の権限を持つ者の意）「全国から

この図書館を見に来ているんだ」ということで、2億近い資料費をかけていることの効果を判断する材料になる。

- ・ 現場でいくら説明してもなかなか通じないことでも、新聞に載る、テレビに映ることによって理事者は判断する。地元紙の記者を中心に、小さい記事でもいいからマスコミへの露出度を維持することは重要。

《館内の体制等に関する意見》

- ・ 何かあったときに誰に相談すれば判断、回答をもらえる、カバーしてもらえる体制が整っていれば、事務量が多くても仕事は回っていく。個々の仕事をシンプルにすることに加え、上まで判断を仰がなくても、中間レベルで判断できるような仕組みを作っていくのはどうか。
- ・ サービス面ではこちら側の物差しと利用者側の物差しは違う。対応できない理由があっても利用者側は理解してくれないこともある。この一、二年は利用者からの評価が決まる重要な時期なので利用者側の論理を忘れないように。

《司書のスキルアップ等に関する意見》

- ・ 各分野のカウンターを担当している職員は県外で講師ができる程度のレベルを目指してほしい。
- ・ 一般的に言うと、カウンター業務、研修等自身の専門性を高めること、県内の各機関と連携を図るため外に出ることがそれぞれ三分の一になることが望ましい。業務のバランスが取れるように考えてもらいたい。

《その他の意見》

- ・ 「大人のカフェ読書」というキャンペーンをやってはどうか。セルフで並ばずに貸出できるので非常にやりやすい環境。二冊くらい借りて近所のカフェに行き、読み終わったらポストに入ればいいだけなので。

(以上)